

令和6年度

第17回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和6年12月12日(木)
開会14時00分 閉会14時30分

場 所 教育委員室

令和6年度
第17回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

令和6年第4回定例県議会追加議案に対する教育委員会の意見について
県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入について
科学の甲子園大分県大会の結果について

(2) その他

【内 容】

1 出席者

教育長		山 田 雅 文
委 員 (教育長職務代理者)		岩 崎 哲 朗
委 員		高 橋 幹 雄
委 員		鈴 木 恵
事務局 教育次長兼福利課長		大 和 孝 司
教育次長		山 田 誠 司
教育次長		武 野 太 平
教育改革・企画課長		鈴 木 耕 平
教育人事課長	吉 雄	幸 平
教育財務課		深 藏 亮 一
高校教育課長		小 野 和 正
教育改革・企画課 総務企画監		角 淵 達 彦
教育改革・企画課 課長補佐 (総括)		新 貝 隆
教育改革・企画課 主査		久 知 良 周 平
教育改革・企画課 主査		穴 見 ひ と み

2 傍聴人

1 名

開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、岩武委員及び岡田委員が欠席です。

(山田教育長)

ただ今から令和6年度第17回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、高橋委員にお願いします。

会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。

会議の終了は14時25分を予定していますので、よろしくお願いします。

議 事

【報 告】

令和6年第4回定例県議会追加議案に対する教育委員会の意見について

(3課〔教育改革・企画課、教育人事課、教育財務課〕入室)

(山田教育長)

それでは、報告第1号「令和6年第4回定例県議会追加議案に対する教育委員会の意見について」教育改革・企画課長から説明をしてください。

(鈴木教育改革・企画課長)

報告第1号について説明します。

資料の2ページをご覧ください。令和6年第4回定例県議会に追加提出された議案「令和6年度 大分県一般会計補正予算(第5号)」など、計2議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、知事から教育委員会の意見を求められました。本来なら知事への回答にあたり、教育委員

会で議決していただくところですが、日程の都合上、協議できなかったため、「大分県教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任し又は臨時に代理させる規則」第3条第1項に基づき教育長が臨時代理として処分し、資料3ページのとおり異議のない旨回答しましたので、同条第2項に基づき、本委員会に報告します。

議案の内容等については担当課長から説明します。

(深藏教育財務課長)

「令和6年度大分県一般会計補正予算(第5号)」の本年度の給与改定に伴う給与費について、教育委員会分の説明をします。

資料の4ページをご覧ください。

「第10款 第1項 教育総務費」の補正予算額のとおり、給与費は31億4,496万9千円の増額となっています。

内訳としては、給料が14億1,979万6千円、期末・勤勉手当や給料改定のはね返し分を含めた職員手当が13億914万6千円、共済費が4億1,602万7千円となっており、これにより補正後の累計は、179億8,770万5千円となります。

(吉雄教育人事課長)

続いて、補正予算に関連する「職員の給与に関する条例等の一部改正」について説明します。

資料の5ページをご覧ください。資料の太枠で囲んでいる項目が教育委員会に関する部分です。

まず、項目1の「職員の給与に関する条例の一部改正」については、人事委員会勧告を受け、今年度の給与改定を行うものです。

(1)の「給料表」については、国に準じた、初任給及び若年層に重点を置いた給料月額の上昇に加え、各号給の額に0.37%を乗じた給料表に引き上げ改定を行うものです。

(3)の「期末手当及び勤勉手当」については、12月期の支給割合をそれぞれ0.05月分引き上げるものです。なお、令和7年度以降、6月期、12月期の支給月数が均等になるよう、併せて改正するものです。

次に、7ページをご覧ください。項目5の「特別職の常勤職員の給与等に関する条例の一部改正」についてです。(1)の「期末手当」について、一般職員に準じて、記載のとおり改正を行うものです。

次に、8ページをご覧ください。項目6の「会計年度任用職員の報酬等に関する条例の一部改正」についてです。(1)の「期末手当及び勤勉手当」について、一般職員に準じて、記載のとおり改正を行うものです。

最後に、10ページをご覧ください。

附則については、改正条例の施行期日や条例の改正に伴い必要となる技術的な事項を定めたものであります。

以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第2号「県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「大分県立高等学校における学校運営協議会の設置」について説明します。

本日報告する内容については、今後の方向性を示すものであり、具体的な内容は年明けの2月に協議いただき、議案として提案したいと考えています。

資料をご覧ください。

設置の根拠ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5の規定により、「学校運営協議会を置くように努めなければならない」ということで努力義務となっています。設置状況ですが、都道府県立高等学校が全国で1,195校、九州では88校となっており、本県では平成27年度に玖珠美山高校、平成31年度に久住高原農業高校、令和5年度に国東高校、竹田高校、中津南高校耶馬溪校、安心院高校に設置し、現在は6校に設置しています。

設置に向けた方針については、地域の高校において、学校や保護者、地域住民等の協働による更なる魅力づくりを推進するということをもとに、令和7年度から順次、学校運営協議会の設置を進め、全ての地域の学校への設置を目指したいと考えています。

令和7年度においては、津久見高校、三重総合高校、日田林工高校の3校に設置したいと考えています。この3校については、一市一校であること、地元中学校の進学率がやや低く、ここを上昇させていく必要があること、全国募集の導入など、地域との連携強化が急務という考え方のもとに設置を考えています。設置時期は令和7年4月1日としています。

期待される効果ですが、地域と連携した持続可能な組織づくりや学校の掲げる目標やビジョンを地域と共有することで更に協働を深めるといった効果を期待しています。

今後の予定ですが、令和7年2月に再び協議いただき、議案として提出したいと考えています。

説明は以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩崎委員)

九州では88校に設置されているということですが、大分県の県立高校の数を教えてください。

(小野高校教育課長)

全日制高校が39校です。

(岩崎委員)

39分の6という割合は九州の他の県と比較して、どのような状況ですか。

(小野高校教育課長)

九州内では4番目に高い数値となっており、熊本県が100%で一番高い状況です。

熊本県については地震があった際に、学校と地域が一体となって安全安心な学校づくりを行っていくという防災的な観点のもと、全校に設置したと聞いています。他県については、佐賀県が40%弱、宮崎県が20%弱となっており、次点に15%で大分県が位置しています。

(岩崎委員)

一市一校でない地域で学校運営協議会の設置を進めていく際、その方法や手段についてはどのように考えていますか。

(小野高校教育課長)

日田市には、日田高校や日田三隈高校がありますが、日田林工高校を例にして考えると、学校の特色として林業に関する学び等があり、日田市の林業関係部局と連携をとりながら組織を作り上げていくことが考えられます。それぞれの学校の学びや特色を踏まえ、地域とも相談しながら、棲み分けを行うような形で、その学校に即した組織を作りたいと考えています。

(山田教育次長)

実績として、現に竹田市では竹田高校と久住高原農業高校の2校に設置されています。小野課長が言ったように、その学校のミッションに応じて委員を選定しているところです。

(岩崎委員)

設置に向けた方針のところで大分市、別府市を除くとありますが、その地域についてはどのように考えていますか。

(小野高校教育課長)

例えば、大分市内でも地域性がある場所もありますので、その地域の関係者を集めるということは考えられます。またその地域・エリアだけでなく、ひとつのテーマを設けて設置するということも考えられます。例えば農業にテーマを絞って、その関係先と連携していくといった形です。エリアコミュニティとテーマコミュニティの両面で、学校に即した考え方をする必要があると思っています。

(鈴木委員)

委員の人選については、小中学校でいうと自治会長や評議員、PTA 役員等が委員となることが多いですが、同じ人が委員になる傾向があり、意見が偏ってくる場合があります。先ほど言われたように、エリアや地域ごとに色々と話し合うことによって、参加される方が変わるということはとても新しいですし、会議も活発になることも望めるので、非常によいことだと思います。

特に地域の高校がよく取り上げられていますが、大分市内や別府市内の生徒数が多い学校であっても、様々な問題を抱えていたりします。地域の方との連携は大事なので、説明いただいたやり方であれば、無理なくできるのではないかと思います。

(高橋委員)

委員については、経済団体や地域の区長、PTA 役員など、様々な団体からバランスを考えて選定すると思いますが、可能であれば地元選出の議員の方にも話をして、協議会に入ってもらってはどうか。定員割れなどの話への関心も強いと思うので、そのような方たちに協議会に入ってもらうことによって、地域で学校を守っていくような組織づくりをしてはと思います。議員の方に応援してもらえる形がよいと思うので、可能かどうかを一度精査してもらいたいです。

(小野高校教育課長)

この件に関連して、地域の議員の方には、高校で行っていることや行政の動きなどについて、報告や連絡・調整、連携をこれからも図っていきたいと考えています。

委員については、行政関係者やPTA 関係者はもちろん、同窓会等からも人選を行っていますが、地域の魅力の再発見・再発掘という観点から、地域おこし協力隊の方にも入っていただいている状況もありますので、幅広い組織となるように考えています。

(山田教育長)

熊本県のように、全国的にも100%の県はいくつかあるものの、かなり県によって導入率に差がある状況です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律で努力義務として定められているということは、目指すところは100%という気もしますが、そう簡単にはいかないと思っています。

この趣旨は、地域に開かれた学校、地域とともにある学校というところだと思いますので、学校運営協議会の在り方というのは、学校や地域的な特性も含めて、色々なバリエーションがあってよいと考えています。小中学校ではほぼ100%という状況ですが、学校によって濃淡があったり、様々な形があったりすると思います。

高校でも「こういうものでないといけない」と、そこにとらわれる必要はないと思いますので、柔軟に考えながら、100%導入しているところの工夫ややり方を研究していただいて、少しでも多くの高校に導入できるように考えていった方がよいのではないかと考えています。よろしくお願いします。

科学の甲子園大分県大会の結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第3号「科学の甲子園大分県大会の結果について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

科学の甲子園大分県大会の結果について報告します。

今年度で第14回になる本大会は、科学好きの裾野の拡大、トップ層の伸長、将来の有為な科学系人材の育成を目的に、11月3日に県教育センターで実施しました。

出場チームについては、各校2チーム以内で募った結果、20校、31チーム220名と、過去最大規模の参加校、参加人数になりました。競技内容は、筆記競技と実験競技2種類を行いました。

筆記競技については、物理、化学、生物、地学、数学、情報から60点ずつ出題される問題を、1チーム6人で協力して解答していきました。

実験競技については、2種類の競技を行いました。実験競技については、化学をテーマとして実施しました。この内容は後ほど映像でご覧いただきたいと思っています。

実験競技については、ものづくりに関する総合競技です。事前に各チームに公開したテーマに対して、各校が準備をして臨む競技となります。今年度は、オリンピックイヤーのため、オリンピックの飛込み競技をモデルとして、プールの水しぶきを多く飛び散らせることを目的とした物理に関する問題でした。プラス

チックの小さい球である BB 弾の入った容器をプールに見立て、ゴムボールを飛込み台から落下させ、BB 弾を多く飛び散らせることを競う競技でした。この内容も後ほど映像でご覧いただきたいと思います。

全競技終了後、企業でのモノづくりに関する講演会を実施しました。講演会では「ディスプレイ製品開発とモノづくりで大切なこと」と題して、ソニー株式会社の柴田英輔氏（大分舞鶴高校卒）から、ご自身のエンジニアとしての経験や、新しいモノをつくるために必要な考え方などについて、講演をいただきました。生徒からは、新しいものを創造するときに必要な考え方などを学ぶことができ、非常に有意義だったとの感想もあり、とても充実した内容の講演会でした。

次に結果ですが、合計 720 点満点で競われたこの大会の最優秀賞は、大分上野丘高校でした。資料の右にあるように、9 回目の最優秀賞となります。また、竹田高校 A チームは初の優秀賞となり、地域の高校が生徒の学びに深く関わり、学校として挑戦意識の醸成に取組んだ成果と考えられます。

次に、映像をご覧ください。

（映像視聴）

以上で映像は終了です。

最優秀の大分上野丘高校は、来年の 3 月 21 日から茨城県つくば市で開催予定の全国大会に参加します。

以上で科学の甲子園大分県大会の報告を終わります。

（山田教育長）

ご質問・ご意見はありませんか。

（質問・意見なし）

（山田教育長）

最後にその他、何かありますか。

（鈴木委員）

今、高等学校における魅力ある学校の実現に係るアンケート調査をしていると思います。このアンケートについて、基礎知識がないと答えられないような設問が非常に多く、現場が混乱していると聞いています。

まず、大分県内にどのような高校や学科があるかもわかっていない中学生や保護者に回答を求めるのは非常に酷です。私も、まだ子どもがはっきりと進路を決めていないのに、親の希望で回答してよいのか葛藤しました。少しやりすぎかなと、もっとマイルドにできなかったのかなと思いました。

かなり踏み込んだ回答まで求めているため、保護者にとっては負担が大きいと思います。これをどのようにとらえられるかは、大きな問題になってくると思い

ますので、せめて、事前に県内の県立・私立の高校にはどのような特色があるか、どのような歴史でこのような状況になっているか、別に資料があってもよいと思いました。

中学一年生の保護者に対し、特にその子が長子の場合、わかりにくく、酷だと思えます。事前にもっと学校の情報を出してください。前回のアンケートの際にもお願いしたと思うのですが、もう少し設問を減らす等、負担を軽くしていただかないと、全部の回答を得られないと思えます。これはとても大事なことで、せっかくこれだけのことに取組んでいるのに、もったいないです。皆さんの意見が反映される高校づくりであってほしいので、是非、わかりやすくしていただきたいです。

また、せめて学校には事前に資料を届けたほうがよいと思えます。先生方は生徒にもう一度説明したそうです。中学生にとっては、それが高校の勉強につながるかもしれませんが、保護者は情報がまったくないため、そこは改良したほうがよいと思えます。今回のアンケートがどれくらいの回答率になるかわかりませんが、次にもし行う場合は URL のリンクを貼り、学校の一覧や特色等をお知らせすれば、併せて宣伝ができます。せっかくするなら、そこまでしてほしいです。もっとアンケートを活用してください。

(小野高校教育課長)

ご負担をおかけしました。いただいたご意見の集約は単発で終わらせるのではなく、改善しながら継続して実施していきたいと思えます。併せて、中学校側には高校の情報をきちんと提供できるよう、考えていきたいと思えます。

(鈴木委員)

URL のリンクを貼れば、皆さん必ずリンク先に行き、情報が得られるので、是非活用してください。

今は学校からのお知らせもメールで来ます。そこに記載されているアンケートフォームをクリックして回答するため、URL のリンクを貼れば、皆さんそのままスマートフォンで見えるはずで、そうすれば情報も一気に得られます。ホームページに掲載している学校一覧の URL のリンクを貼れば、そのまま各学校のホームページにも行けるはずで、せっかく皆さんがアクセスするので、是非活用してください。

(山田教育長)

それでは、これで令和6年度第17回教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。